



サービス評価と 運営推進会議を活かして

地域密着型サービスの質の確保と向上を
—— 認知症ケアの地域拠点をめざして ——

平成18年度 厚生労働省健康増進等補助事業

目次

はじめに	3
地域で自分らしく暮らし続けることを支える「地域密着型サービス」	4
運営推進会議を活かして事業所のパワーアップをはかろう！	6
運営推進会議のあんな例、こんな例	8
運営推進会議の進め方	10
運営推進会議を開催して	12
運営推進会議成功の5つの鍵	14
サービス評価を活かして確実な質の確保と向上を	16
地域密着型サービスとして～統一的なサービス評価へ～	18
サービス評価の進め方	20
さまざまな立場の人がサービス評価を活かそう	22

このリーフレットは、運営推進会議およびサービス評価の理解と
円滑な実施を進めていくための手引きとして作られました。
ぜひ、ご活用下さい。

はじめに

障害のいかんにかかわらず利用者一人ひとりを個人として尊重し、その人らしく暮らし続けることを願って創設された地域密着型サービス。その願いを実現するために、小規模多機能型居宅介護ならびにグループホームの職員は日夜懸命により良いケアのあり方を模索しています。一つひとつの事業所が、地域密着型サービスとして本来求められる機能を確実に果たしていき、地域の中で成長していくことが多いに期待されています。

その展開には、2006年度から地域密着型サービスに導入された運営推進会議や統一的に実施されることになったサービス評価を、事業所はもとより関係者が有効な手段として活用していくことが重要な鍵となります。

地域密着型サービスが地域の認知症ケアの拠点となり、多くの住民が関わっていくことにより、自然な形で認知症サポーターとなり、いつでもどこでもその人らしく暮らし続けることができる社会が生まれることが期待されます。



地域で自分らしく暮らし続けることを支える 「地域密着型サービス」



2006年4月の介護保険制度の改正で、
利用者が地域の中で暮らし続けることを制度的に保障するための
抜本的な見直しが行われました。

そのひとつとして利用者を中心に多様なサービスを一体的かつ
柔軟に提供していく「地域密着型サービス」が創設されました。

利用者一人ひとりを個人として尊重し、

その人らしく暮らし続けることを

24時間365日とぎれなく支援します。

従来の介護保険サービスでは、

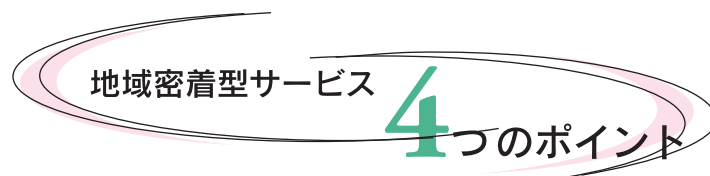
都道府県が事業所の指定・監督等を行ってきましたが、

それらが市町村に委譲されました。

利用者は原則、事業所のある市町村の住民の方です。

身近な地域で、行政、事業所、住民が一体となって

「わが町のサービスの質」の確保・向上に向けた取り組みを
展開していくことへの期待が高まっています。



①本人本位の支援

地域密着型サービスの主人公は利用者です。利用者のニーズに基づいたサービスを柔軟に提供します。本人に寄り添い、その思いや希望を受け止め、それを叶える方法を考えます。

②継続的な支援

24時間365日、切れ目のない支援で利用者の暮らしを支えます。「お世話をする」のではなく「生きることを支援する」という姿勢で、本人ができること、できる可能性があることに着目します。馴染みの職員による継続的な生活の支援を行います。

③地域で暮らし続けることの支援

本人がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切にします。家族はもとより馴染みの店や見慣れた風景、行き交う人たちとのふれあいなど、それが地域密着型サービスの醍醐味です。

④地域との支えあい

事業所も地域住民の一員です。地域に溶けこみ、その一員としての役割を果たします。多様な地域資源の力を借りるとともに、積み上げてきた認知症ケアの実践を地域に伝えるなど、地域と支え、支えられる関係が鍵となります。

運営推進会議を活かして事業所の パワーアップをはかろう！

運営推進会議とは

地域密着型サービス事業所は、地域と連携し、地域に密着した運営が特徴です。
そこで、国の基準では「運営推進会議の設置」が義務づけられました。
(2006年3月14日厚生労働省令第34号「指定地域密着型サービス事業の人員、
設備及び運営に関する基準」第85条（地域との連携等）)

運営推進会議の目的は？

地域密着型サービス事業者は、地域と連携し、地域に密着した運営が求められます。
運営推進会議では、地域に開かれたサービスとして質の確保・向上を図っていくことを後押しします。

おおむね2ヶ月に1回以上、定期的を開催することとされています。単に報告や情報交換に留まらず、話し合いを通して会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービスの向上に具体的に活かしていくことが大切です。

運営推進会議の参加メンバーは？

利用者、利用者の家族、地域住民の代表（町内会役員、民生委員、老人クラブの代表等）、事業所が所在する市町村の職員又は地域包括支援センターの職員、地域密着型サービスに関して知見を有する人等が参加します。

参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を十分に理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけていきましょう。

運営推進会議を活かした取り組みは？

運営推進会議メンバーの意見の反映

運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。

運営推進会議のメンバーからいかに多くの率直な意見をひきだし、改善にむけた具体的な取り組みにつなげていけるか、事業所側の姿勢が運営推進会議メンバーの参加意欲にも反映されていきます。

サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組み

運営推進会議では、自己評価の内容を説明すること、外部評価の結果を公表することが必須です。

年に1回の評価の効果をより高めるためには、取り組みや改善経過のモニター役が必要です。運営推進会議はまさにその適役です。評価と運営推進会議をそれぞればらばらに考えるのではなく、一体的に活かしていくことで相乗効果が期待できます。



運営推進会議の あんな例、こんな例

開催場所

- 事業所で、いきいきサロンを予定しており、そちらに集まってもらっています。
- 公民館館長がメンバーで、公民館を活用させてもらっています。



参加している人

運営推進会議に参加するメンバーとして示されている人の他にも、内容に応じて臨機応変にメンバーを募っているケースもあります。

- 警察署、消防署の方に参加してもらっています。
- サービス評価調査員や評価機関の方にオブザーバーとして参加してもらっています。
- 介護相談員にも積極的に呼びかけています。
- 近くの小中学校のPTAの方にも声をかけています。



良かったなあ

- 会議をきっかけに地域の方が立ち寄ってくれるようになり、実際に事業所のやっていること、目標としていることを理解してもらえるようになりました。
- 児童との交流に取り組みたいと考えていたことが、推進会議の場で相談するとメンバーである婦人会会長がすぐにPTAに橋渡しをしてくれ、実現しました。
- スーパーの入り口に段差があり、車イスの方の利用が困難という話をしたところ、メンバーの方がスーパーに相談してくれました。さっそく、段差解消のスロープを付けてくれました。
- 児童らがベルマークを集めて、車イス一台をプレゼントしてくれました。
- 地域包括支援センターとの連携が密になり、地域全体の今後のケアのあり方の方向性が見えてきました。



困ったなあ

- 「なぜ、民間の事業者のやることに参加せなあかんのか？」という声
⇒市町村が関係者に運営推進会議の必要性を説明してくれることで、前向きに参加してくれるようになりました。
- 「利用者が迷子になるといけないので、名札をつけてくれ」、「危ないから玄関には鍵をかけて」という声
⇒地域の方の認知症の人に対する理解は、十分ではないことを再認識しました。
運営推進会議こそ理解を得ていくための貴重な場であり、ここがスタートラインと考え、がんばっていこうと思います。
- 「次に何をテーマにして良いか分からない…。
もう行事の報告は終わってしまったし…」という声
⇒事業所の集まりで、前回の評価で課題になった点を相談したところ、改善に向けた協働をしてくれることになったという事例を聞きました。
そこで地域との関わりが弱かったので率直に話したところ協力を得ることができました。
以来、評価項目を話し合いのテーマに用いて、あきらめかけていたこともアイデアをもらって質の向上に取り組んでいます。



運営推進会議の進め方

～ 1 年を通して運営推進会議のテーマを考えてみよう～

[ある事業所の取り組みより]

第1回 5月テーマ

- 運営推進会議の意義や目的をしっかりと説明しよう！
- 我が事業所の理念を伝えよう
- 事業所全体状況、サービス提供の報告をしよう

第2回 7月テーマ

- 災害対策について話し合おう
(消防署の人にも参加してもらおう)
- 地域ぐるみでの消防訓練や救急救命法訓練実施を計画しよう
- 緊急時に備えて、地域でのサポート体制を相談しよう

第3回 9月テーマ

- 去年の評価結果の課題や活かした内容について報告しよう
(評価機関の人にも参加してもらおう)
- 選択した評価機関やサービス評価の取組み方針や実施状況を伝えよう
- 評価にあたって家族アンケートの依頼について伝え、家族会や家族の意見の反映等の状況を報告しよう

第1回 5月

第2回 7月

第3回 9月

第4回 11月

第6回 3月

第5回 1月

第4回 11月テーマ

- 事業所のセーフティーマネジメントについて話し合おう
- 個々にあわせてリスクについて事業所の対応方針を伝えよう
- 徘徊SOSネットワーク作り等、地域ぐるみで認知症の人が安心して暮らせる町づくりについて話し合おう
(警察署の人にも参加してもらおう)

第5回 1月テーマ

- 評価の活用について話し合おう
(評価調査員にも参加してもらおう)
- 評価結果を報告し、今後の改善に向けた取り組みを伝えよう
- 改善に向けたモニター役をお願いし、協力してもらえることを話し合おう

第6回 3月テーマ

- 子どもたちや住民との交流について話し合おう
- 子どもたちがお年寄りと触れ合い、交流できる機会を相談しよう
- ケアに関する知識や経験を活かして、地域の人たちが相談できる場作りを話しあおう

